

| 月例報告 |   |
|------|---|
| 学部   | 法学  |
| 学科   | 国際政治  |
| 国名   | アメリカ  |
| 留学先  | ウイスコンシン大学ミルウォーキー校   |
| 報告月  | 2018年8月   |
| 内容   | <p>1.②学習状況の報告</p> <p>授業はまだ始まっておらず、履修する授業も未確定なので日常生活の語学について報告したいと思います。ウイスコンシン大学ミルウォーキー校(UWM)に來ている派遣留学生は約40人で、ヨーロッパからの留学生が多く、特にドイツ語圏の留学生が多い印象を受けました。大学職員の話す英語は理解できていますが、スラング交じりの学生の会話は聞き取れないことがよくあります。また、派遣の面接でも聞かれた通り、やはりスピーキングが課題だと痛感しています。留学生は、アジア圏、ヨーロッパ圏というように固まる傾向があり、積極的にコミュニケーションをとっていかねば仲良くなることは難しいと感じています。アジアの友達と過ごすのは楽しいのですが、居心地の良い空間を抜け出して、能動的に行動を起こし沢山のひととコミュニケーションを取ることが、英語力を伸ばしていくための一つの出発点だと思います。自ら行動していかないと、英語に触れる機会が極端に少なくなることもあるので気を付けていきたいです。</p> <p>友人とのコミュニケーションを楽しむためには様々な話題を持っていることがプラスになると感じました。私の場合、留学に行く前にアメリカのドラマをよく見るようになったのでその話をしたり、好きなサッカーの話をしたりします。日本で友達と話すように、映画・スポーツ・音楽など何かしら共通して話せる話題がある方がやはりよいと思います。また、日本に興味のある友人はおすすめのドラマやアーティストなど日本についてのこともよく聞いてくれます。それがどんなにマイナーなものであっても、英語で自分のおすすめをきちんと伝えることが大切だと当たり前のことですが、感じました。</p> <p>2.②生活状況の報告</p> <p>私は、現在大学が所有するキャンパス外のアパート(Kenilworth Square Apartment)に住んでいます。同時期に來た私以外の日本人留学生は、みんなキャンパス内の寮に住んでいます。部屋は、3人で使用していてそれぞれに個室があります。9月に入ってようやく3人そろった生活をスタートさせました。このアパートは3年生以上からの入居が可能で、私のスイーメイトは中国人とアメリカ人の大学院生です。海外留学でありがちな音問題や掃除の問題には遭遇しておらず、不憚なく生活しています。アパートの周りには、スーパーやレストラン、カフェや映画館などがあり、生活しやすい環境です。まだ到着して間もないので、時間があるときに散歩をして街の様子を見てみたいと思います。寮では自炊をしています。基本的に自分の食べたいものは、自分で買って自分で作るという形式です。これまで一人暮らしをしていたので家事自体への苦痛は感じませんが、異国の地で日本食を作る難しさを感じています。通学には学校のシャトルを使用していて、7分ほどで到着します。アメリカは車がないと移動が大変といいますが、UWMの学生はミルウォーキー市内どこでも無料でバスを使用することができるので、少し遠方のWalmartやBayshoreMollといったショッピングモールへ買い物に行くことも可能です。また、シャトルの運行が終了した夜間でも、BOSSというUWMのタクシーを手配することができます安全面にも配慮してくれています。</p> <p>9月3日まで、大学のWelcomeWeekの期間で毎日何かしらのイベントが開催されていました。どのイベントもたくさんの学生が参加し活気がありました。特に盛り上がっていたのは、地元野球チームMilwaukee BrewersとChicago Cubsの試合観戦のイベントです。2つのチームは隣り合った州のチームで、シカゴまでは1時間半ほどの距離なので、両方のチームを応援する観客で満員のドームは熱気であふれていました。イベントでは新しい友達に出会うことができるので積極的に参加するのが良いと思います。</p> <p>3.②その他(今、感じていること～心境の変化やご自分の成長等)</p> <p>渡米前は、生活への不安や言語の不安以外にも、アメリカで学ぶということに正直不安がありました。それは、「広島について予想外の質問をされたとき、私はきちんと答えることができるのか。そしてその時私はどういう立場で意見を発信するのか」ということです。前述した通り私は、広島出身です。子供の頃から平和と戦争、紛争への関心が強く、大学に入学してもその学びを深めたいと考えており、多様性に富んだUWMで平和構築を学びたいと思い留学を決めました。しかし、渡米が近づくにつれて広島出身の私がアメリカで平和について学ぶということに杞憂に近い不安を感じ始めました。私は、広島のことを知った気になっていないのか。そんな私が向けられた質問に答えることができるのだろうか。国際政治学科で4年間学ぶ中で、自分の一つのバックグラウンドである「広島―核」に対する考え方は多様であることを知り、学べば学ぶほど、どの意見にも一定の理解ができてしまい、自分の意見の立場に対して、正解のない迷路に迷い込んだような気がしていました。その迷いの中で、比較的原爆投下が正しいと考えている人が多数のアメリカでどのように私は意見を発するのだろうかと考え始めました。</p> <p>渡米前に広島市内を訪れる機会があり、胎内被爆者であり、自ら原爆ドームの前でボランティアをしている方とお話をさせていただきました。その方との会話の中で「広島の人には広島出身であるということのネームバリューを正確に認識していない」という話をさせていただきました。広島出身ということが、自分が思っている以上に外からの関心の中にあり、原爆と平和を語る権利と責任が他の人よりあるということを感じさせられ、不安の中でも自分の意見を伝えていかなければならないと改めて決心させられました。実際、先日、スウェーデンから來た同じ派遣留学生に、広島のことを聞かれました。彼は、未だに広島が原爆による放射線の影響の中にあると思っていて、「広島は原爆を落とされたのに畑作が可能なの?」といわれ、やっぱりそう思っている人って実際に居るのだと思ってしまう。 (そこまで衝撃的ではなかったです) また、「広島のパックグラウンドがあるあなたがアメリカで勉強するのって難しさを感じない?」という質問も受けました。確かに色々な意見があります。しかし、「色々な意見に理解を示しつつ、その存在を理解したうえで自分の意見を発信するのがいいのでは」というアドバイスも派遣留学の先輩にもらい、実際にそういう状況に出会ってみて、悩みながらも「発すること」に努めていこうと思いました。これからも思いがけない意見に遭遇することもあるかもしれません。考えてもみなかった質問をされることもあると思います。しかし、どんな質問にも意見にも誠実でいたいし、意思をもって意見を発したいと思っています。</p> <p>写真:</p> <p>①UWM2018留学生集合写真                      ②日本語を勉強している友人と食事</p> <p>③Welcome Weekの野球観戦</p> |